

言語

姦

覺

筒井康隆

語姦覺筒井康隆

中央公論社

言語姦覺

定価八八〇円

昭和五十八年三月二十五日初版発行

昭和五十八年四月十日四版発行

著者 筒井康隆

発行者 高梨 茂

発行所 中央公論社

〒104 東京都中央区京橋二一八-七

振替東京二二三四

印刷所 三晃印刷

製本所 大口製本

Published in Japan by CHUOKORON-SHA, INC.

© 1983 Yasutaka Tsutsumi

検印廃止

目次

現代の言語感覚

現代の言語感覚

虚構におけるハナモゲラの自己完結性

歌謡曲の奇怪なイメージ

言語感覚とメディア

超虚構宣言

パロディと虚構性

超虚構宣言

外部からの圧力内部からの圧力

教育目的の美名の下に改竄は許されるか？

真実の文学

ある文学的伝統

ブライベート世界史

8	8	8	8	7	7	6		6	6	5	
9	7	6	4	7	3	9		3	0	3	9

マリオ・バルガス・リョサの『緑の家』
マルケス——やりきれなさの文学

9 9
6 4

しあわせ座長

まわり道

1 0
5

芝居の楽しみ

1 0
7

漸新

1 1
0

幕間礼讃

1 1
2

演劇とトリックスター

1 1
5

川和さんのこと

1 1
9

ついに体が動き出した

1 2
1

しあわせ座長

1 2
4

三人の男とひとりの女

1 2
7

限定されない科白

1 3
0

A型社会の弊害

紙不足による不安感

1 3
5

インタヴュー―心理

選んでかすをつかむ

サミット前夜

同窓会

過剰適応

泥棒から税金

不用意な発言

ホーム・ドラマ

はがきか電話か

喪中につき

甲子園の一件

A型社会の弊害

タンク・タンクローリ讃

筒井康隆に25の質問

私のオールタイムベスト10

青春時代の読書

138

141

144

146

148

150

152

154

156

158

160

164

169

175

180

私の処女作——文部大臣のお話

最初の記憶

人生の設計

漫画修業

タンク・タンクロー讚

サム・スピード

想い出のボギー

こんなふうに外国テレビ映画を見ている

情景描写とミステリイ

私の泣きどころ

困った電話

オーディオを語る

神戸からの手紙

靈感のつかみ方

「おもろ」がる精神——『田辺聖子長篇全集』解説

初出一覧

181

184

187

191

195

199

201

203

205

208

211

214

216

218

221

言語姦覚

現代の言語感覚

現代の言語感覚

一語 例

今、日本中で語られ書かれていることばの中には、近頃特に会話や文章中に頻出するようになった奇妙なことばの使いかた、そしてそのことばの頻繁な反復があり、それらはそもそも奇妙なものでありながら多くの人による慣用によって見聞きする人がさほどの違和感を覚えなくなってしまうている。たとえば「あのですね」のような語りかけ、「どうも」のような何にでも応用のきく簡略化された挨拶、その他「そうですね」「極端（端的）に言えば」「やっぱり」「その時点で」「と言いたい」「と言うと嘘になります」「わたしって意外と」などである。どなたもご存じのことばばかりであろう。流行語のようでありながら流行語の如き話題性は持たず、かといって慣用句の如き複雑さや来歴もなく、しかもありありと現代を表現していることばである。中にはこうしたことばを濫発する有名人によって流行語にまでなってしまった「よろしいんじゃないですか」のような例もある。

ふだん多くの人々がさほどの自覚もなしに使っているこうしたことばをとりあげ、それぞれが今の社会で重宝がられ、使用されている裏で、どのような現代人の心理が働いているかを探ってみるのがこの一文の目的である。そしてそれらのことばの多くにあきらかに共通する心理がもし見出せれば、現代人の意識をことばの側面から探ったということになり、また現代にいながら現代の性格を知ろうとすることにもなり得るだろう。

あのですね

最近よく耳にするこの語りかけのことばは、主に年少の者、目下の者が年長の人、目上の人物に向かつて語りかける際に使われる。まるで語頭と語尾だけで構成してまん中を全部省略したかに聞こえるこのちょっと異様なことばはいったいどのような心理状態から発せられ、どのような意味が含まれているのだろうか。今、「あのですね」と語りかけている人が相手に対してどういう意味内容を伝達させようとしているかを想像し、もう少し詳しく、同じ語りかけのことばに言い換えて書いてみると、だいたい次のようになる筈である。

*

まず最初に「あの」といってわたしはあなたに呼びかけました。つまりわたしはこれからあなたに話しかけようとするわけなのですがそのことはあなたにもよくおわかりの筈です。ところがわたしはうまく話せないのです。そのことはわたしが今「あのですね」というひどく長い語りかけのことばを言っていることからまあよくおわかりになると思いますがね。ではなぜあなたの名前

または役職名でもって「中村さん」とか「課長（先生）」とか呼ばないのかといいますと、わたしはそういう改まった呼びかたが好きではないし照れくさいし、あなたがそう呼ばれることを嫌っておられるかもしれないし、だいいちよそよそしくなるので気楽にお話することができません。改まった呼びかけかたをするとそのあともずっと改まった口調を続けなければならないでしょうし、わたしはそういう話しかたを今まであまりしたことがないのでできません。そもそまなげうまく話せないかというわたしがもとと目上の人に対してはうまく話せないところへもってきて、これからお話しすることはちょっとこみいって、そしてちょっと重要なことなのです。だから尚さら話しくいというわけですね。しかもその上そのちょっと重要なことというのはどちらかといえばあなたにとって重要なことではなくわたしにとって重要なことなのです。だからそのことに対してお怒りにならないでほしいのですがね。あなたのいそがしいことはよくわかっていますが、それがわかっているにかかわらず尚かつお話ししなければならぬほど、わたしにとって重要なことなのです。と同時に内容がわたしの話す能力を多少上まわって少しこみいっているためにわたしの話しかたがまわりくどくなったり言い間違えが多くなったりしますけど、そのことについてもお怒りにならないでほしいのですがね。つまりわたしがこれほどあなたの怒りを気にするということはそれだけあなたを恐れていて、またそれだけあなたの感情を尊重してもあるわけですから、尚さらあなたはそのようなわたしに対してお怒りになってはいけません。あなたがもしお怒りになるとわたしはますますあなたに対して話を正確に伝えられなくなりますよ。しかもそれはほとんどわたしの責任ではないのですよ。あなたがいつも怒る人だから、ある

いはまたあなたが怒りっぽい人であるかのような印象をわたしにあたえるからいけないのです。という意味のことをわたしは今「あのですね」と言ったことによって、それからそう言ったあと少し間を置いたことによって表現したつもりなのですがね。ですからそのことはもちろんあなたにはおわかりになりましたね。ね。おわかりですね。おわかりですね。

*

ここにあるのは相手に対する恐れであるが、その恐れの中には相手を怒らせることへの恐れだけではなく相手の怒りによって自分が傷つくことへのより大きな恐れもある。また相手への意図的な甘えもある。その甘えによって相手の怒りを少しでも緩和させようというわけである。前提として自分は口下手だから自分の言ったことに対し相手は怒るであろうという思いこみ、及び劣等感がある。ナルシズムも見られる。自分の話しかたや話の内容によってたびたび相手を怒らせた体験があり、怒りやすい目上の人物や口やかましい年長者を周囲に持っている、この語りがかけいつのまにか口ぐせになってしまふ。しかし今やこの語りかけだけで怒ってしまう人物も存在する以上、この語りかけのことが持つ違和感によって相手にあたえる軽い衝撃、一瞬思考を停止させる力は効果をなくしつつあると考えてよい。

どうも

「どうも」は通常、「ありがとう」「恐れいます」「恐縮」「すみません」「失礼」「ご迷惑をおかけしました」「ご無沙汰しました」などの儀礼的なことばの頭にくる筈だが、下が略されて「ど

うも」のみとなり、最近では「まことにこのたびは残念なこと」などの場合の「まことに」とか、「では失礼いたします」などの場合の「では」などの代用、及びそれ以下のことを省略するために用いられている。現代、これほど濫用されていることばは他にあるまい。「どうも」をもう少ししていねいにした簡略語に、「どうも」の下へ似たような意味の「たいへん」や「いろいろ」をくつつけた「どうもたいへん」「どうもいろいろ」などがあり、ふざけたものに「どうもでした」などがある。何回も続けて「どうもどうもどうも」と言う場合はよりていねいであると同時にふざけてもいるという感じが表現でき、ぼくは時おり小説の中で「どうもどうもどうもどうもどうも」などと書いたりする。

もう今となつては「どうも」がどのような心理から発せられているのか、ほとんど分析のしようがなくなっている。ぼく自身つい意識せずに発している場合があり、この時の心理を自己分析しようとしても不可能である。「どうも」のあとにくるべきことばや場所柄や相手によって無数の意味をあたえることができるが、この場合はあくまで、日常挨拶がわりに使われている「どうも」に限り、その真の意味を推測してみることにしよう。

*

あなたに対してここで何か儀礼的なことばを言わなければならないのですがそうした古風な言い方は現代的ではない上に、あなたにとってもわたしと同じ言い方で返事しなければならぬのは苦痛でしょう。ですからわたしはそれを省略させていただきます。あなたもわたしも、そんな古風な儀礼的なことばにこだわるような古くさい人間ではありませんね。そうですね。モダ

ーンな、シャープな現代人ですからね。そうですね。でも何か言わなければならぬことだけはわたしにもわかっているのですよ。わたしは無教養な人間、または馬鹿ではないのですからね。

それは認めてくださいね。だって現代はスピードが大切です。儀礼的な挨拶などという自己満足によってある一定の速度で流れている現代的時間を停滞させるのは罪悪だともいえます。いやいやこれはあなたにわたしと同じ生活速度を強制しているのではないのですよ。わたしと同様あなたもいそがしいであろうことはよく承知しています。もし万一、現在あなたがいそがしくなかったとしても、あなたは自分のいそがしかった時を思い出してわたしを許してくださいさなければなりません。あなたはもしかするとわたしに儀礼的な古風な言いまわしのことを言おうとなさっていたのかもしれませんが。それをわたしが「どうも」と言うことによって封じてしまったのだとしても怒らないでくださいね。ほんとはわたしはそれが苦手なのです。だって周囲には風潮としてそのような言いかたをする日常に乏しいのだから当然わたしは馴れていないのです。みんなが「どうも」と言うのですからむしろそれに馴れることが現代人の義務でしょう。だいいちあなたとわたしとは〔ケース1〕または〔ケース2〕に続く、

〔ケース1〕そんな仲ではないでしょう。お互いによく知りあった間柄ですから儀礼的なことばを使うとよそよそしくなりますし、かえって失礼になり、ふざけているように感じられても困りますからね。だいいち儀礼的なことばを考えるのが面倒だしそれはお互いさまでしょう。

〔ケース2〕まだお互いをよく知らないのですからどういいう儀礼的なことばを交しあっているかわかりません。ですからわたしが儀礼的なことばを使わないからといって怒らないでください。